



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	はじめてのがっかい
Author(s)	渡辺, 謙仁
Citation	Sauvage : 北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院院生論集, 8, 9-13
Issue Date	2012-03
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/49149
Type	departmental bulletin paper
File Information	Sau8_001.pdf



はじめてのがっかい

渡辺 謙仁

国際広報メディア専攻 博士後期課程

キーワード：宇宙論、トンデモ、自称研究者、寝台特急サンライズ出雲、らき☆すた

1. はじめに

私は理学部の物理学科を卒業したので、もともと理系だった。修士課程は教育学研究科だったので、研究科としては文系だったが、天文学研究室に所属していたのでやはり理系であっただろう。文転したのは本学院の博士後期課程に入ってからである。私はやらなかったが、分野による程度の違いはあるにせよ、理系では学部の中から学会発表をするのが普通であるので、本学院の修士課程の院生があまり学会発表をしないと聞いて驚いている。そこで本稿では、どこまでこれから学会発表をしようとする読者諸氏の役に立てるか分からないが、私の「はじめてのがっかい」体験を語ることにするので、参考にしてもらいたい。

2. きっかけ

私の初めての学会発表は、私が M1 の時（2008 年 9 月）に岡山理科大学で行われた日本天文学会秋季年会においてであった。本稿ではその体験を、記憶を辿りながら時系列を追って語る。

当時の私は、望遠鏡の使い方の疑似ストーリー型動画教材を開発していた。当時、日本の天文教育界ではストーリー型動画教材自体が存在しなかったため、私の研究成果を発表することは学会にとって非常に価値があると指導教員に言われ、発表することになった。

3. 日本天文学会はどこなの？

日本天文学会は 2008 年に創立 100 周年を迎えた伝統を誇るが、権威主義に陥ることなく、自由闊達な議論を大切にしている学会である。会員数は約 3000 名に上り、春と秋の年に 2 回開かれる年会では 3、4 日間の期間中、それぞれ約 600 件の発表が行われる。年会では最先端の天文学の研究成果のみならず、天文学の教育や普及に関する研究成果や実践報告も数多く（2008 年秋季年会では 20 件）発表される。天文学は近代までは暦や航海術への応用など、極めて実用的な学問であったが、対象がブラックホールやダークマター、宇宙の果などに移った現代にあってはほとんど役に立たない学問となったため、常に教育や普及をしていかないと、すぐになくなってしまからである。事業仕分けで学術予算が縮減されたことも、教育や普及の重要性をあらためて認識させた。

4. 学会員になるべきか？

日本天文学会は学会員でなくても、またどんな内容でも申込みフォーマットを満たしていれば発表できる。これが特に「宇宙論」分野においてトンデモ系の自称研究者の発表の場として狙われてしまう原因でもあるのだが、色々なバックグラウンドを持つ人々が気軽に発表し、多様な議論を巻き起こす原動力にもなっている。しかし学会員になれば、年に 2 回ある年会の参加

費などが安くなったり、学生が発表する場合、旅費の補助が出たりする。13000 円もする年会費と、学会員になることで得られる利益を比較して、学会員になるかどうか決めるといいだろう。

5. 発表申込み

学会員にならない場合、準備は発表の申込みに必要な、理系の論文の執筆では一般的な組版処理ソフトウェアである「**TeX**」をパソコンにインストールするところから始まる。**TeX**について詳述することは本稿の範疇を超えるので、日本天文学会で自らの宇宙論を語りたい読者諸氏は、適当なリファレンスを参照願いたい。

TeX のインストールが終わったら、年会 **Web** サイトから発表申込み用パッケージをダウンロードする。パッケージは年会の度に新しいものがリリースされ、使用している **OS** や文字コードによって違うものが用意されているので注意しよう。パッケージには申込みフォーマットが書かれた **TeX** のソースファイルが含まれている。**TeX** の文法を知らなくても、テキストエディタを使ってこのフォーマットを埋めることで、申込書のソースファイルが完成する。フォーマットには発表タイトル、発表者の氏名と所属（共同研究者がいる場合にはその氏名と所属も）、発表形式（口頭発表、ポスター発表など）、発表セッション（分科会）、発表内容を端的に表す多くても 5 つ程度のキーワード、発表要旨を記入する。ここで記入した内容が発表予稿として年会 **Web** サイトで公開されるので、特に発表要旨のところは研究の背景、目的、方法、結果、考察などが分かるように、良く考えて記入しよう。この時、まだ結果が出ていなければ、「続きは当日の発表で！」としても構わな

い。また、本稿にも冒頭にキーワードを書いておいたが、はたしてこれがキーワードとして相応しいものなのかどうか、良く考えて欲しい。ソースファイルが完成したら、コンパイルして正しく組版されることを確認し、ソースをメールの本文にペーストするか添付ファイルとして、指定されたメールアドレスにポストする。メールの送信時は文字コードが 7 ビットになっているかチェックしよう。送ったソースに問題がなければ、自動的にアクセプトのお知らせがメールで送られてくる。これで発表申込みは完了だ。ちなみに最近、発表は 1 人 3 件までになった。自称研究者が 1 人で約 100 件の発表を申し込んだりして、プログラム編成に困ったかららしい。

以上、日本天文学会で発表する予定のない読者諸氏には役立ちそうにもない、瑣末なことまで書いたが、それは、私が初めての学会発表の申込みで苦労したことを知って欲しかったからである。日本天文学会の年会は年に 2 回しかないのに、面倒臭い **TeX** の扱いになかなか慣れないのだろう。何回も発表しているはずの教授でも、ソースを変な風に弄ってしまったり、文字コードが 7 ビットになっていなかったりして、エラーを出すこともある。

6. 講演登録費支払

2008 年秋季年会では、講演登録費は会場で現金で支払う方式だったが、最近、事務作業の削減のために、事前に原則としてクレジットカードで支払うようになった。会場で現金で支払うと別途 1000 円の事務手数料を取られてしまうので、支払期間中に指定された **Web** ページで決済を済ませよう。なお、クレジットカードを持っていなくても、銀行振込などで支払えるようである。

7. 旅費補助の申請

2008 年秋季年会の時は、私はまだ学会員ではなかったため、旅費は補助してもらえなかった。旅費の補助を希望する場合、年会 Web サイトから申請書をダウンロードして記入後、締切までに学会事務局まで FAX か郵送で送れば、年会当日に現金で受け取れる。当日は印鑑を忘れないこと。

また、本学院も学会発表をする院生に対しては、国内の場合 5 万円まで交通費を補助しているが、複数箇所から補助を受取るのはルール違反なので気を付けよう。本学院の補助は年 2 回までなので、学会の補助がない場合に申請すると良いだろう。

8. 懇親会の事前申込み

年会開催中のある夜には、懇親会という立食パーティーが開かれ、色々な人と交流することができる。しかし、懇親会は料理や酒の内容に比べて参加費が割高のため、懇親会に参加せずに気の合った者同士で好きな所へ飲みに行く人達もいる。この時、先生などの年上の人と行くと奢ってもらえることが多い。日本天文学会の懇親会の参加費は一般 5000 円、学生 3000 円である。取り敢えず 1 回出てみて、気に入ったら次回も出てみると良いだろう。懇親会の事前申込みは Web フォームやメールで行う。懇親会は定員に達すれば参加できなくなるので、参加の希望があれば、事前に申込みすることをお勧めする。

9. 交通機関や宿泊施設の予約

学会の開催地がホテルが少なかったり、交通の便が悪いところだったりすると、交通機関や宿泊施設が予約で一杯になってしまうこともあるので、それらは早めに予約しよう。なお、2008 年秋季年会では、私は宿泊費の節約の

ためにホテルを予約せずに、ネットカフェに泊まった。詳しくは 13 節を参照のこと。

10. 発表準備

口頭発表の会場には、自分のパソコンを繋げるプロジェクターが用意されている。Word の画面をプロジェクターで映して発表していた自称研究者が 1 人いた他は、全員が PowerPoint などのプレゼンソフトを使って発表している。アニメーションや動画を埋め込んだりして効果的なプレゼンが出来ることから、口頭発表ではプレゼンソフトを使うことを勧める。PowerPoint を持っていない読者諸氏は、プレゼンソフトにはオープンオフィスなどの無料のものもあるので使ってみるとよい。

発表に慣れている人の中には、発表スライドを前日にホテルで作る人もいるが、私は初めての学会発表の時は、スライドは 1 週間くらい前から作り始め、指導教員などに発表の練習を見てもらった。発表当日に聴いてくれた人と有意義な議論をするためにも、発表の準備は入念にして当日に臨みたい。

日本天文学会の口頭発表の時間は 9 分である。高橋メソッドなどの特殊なプレゼン手法もあるが、普通は 1 枚のスライドで 1 分を使うと良いと言われる。表紙や目次などを除いて、9 枚くらいのスライドにまとめると良いだろう。

11. 発表前日

学会に参加する知り合いがいる場合、パソコンやスライドのファイルの不具合に備えて、お互いにファイルをコピーして相手に渡しておこう。実際、2008 年秋季年会では、私のパソコンが不具合を起こし、知り合いに借りることになった。

何を着れば良いのかも気になる。日本天文学会の場合、ほぼ全員がカジュアルな服装で、スーツをお召しなのはたまたまテレビの科学番組に出演される国立天文台天文情報センター広報室長の方や学会理事長、学会賞の受賞記念講演で話される方くらいである。9月ならTシャツとハーフパンツで十分である（さすがに上半身裸などは男性でもいけない）。天文学などの物理学系の学会ではカジュアルな服装で発表する人が多いようだが、スーツを着る一門もあると聞くので興味深い。私は初めての学会発表の時は、カジュアルな服装が一般的なのを知らず、スーツを着て行ってしまったので、「次は蝶ネクタイだね」と指導教員に言われてしまった（笑）。服装は学会によって全く違うので、良く調べてから参加しよう。

学会の開催地が遠かったり、交通障害に備えたい時は、開催地に前乗り（前日に現地に入ること）することになる。前乗りすれば、発表の準備が済んでいる場合、開催地の観光もできる。

12. 発表当日

いよいよ発表の当日である。年会初日の発表だったが、午後からだったので、当時奈良に住んでいた私は、当日の新幹線で岡山入りした。参加手続きや、スライドが正常にプロジェクターで映せるかどうかの確認もあるので、会場にはギリギリではなく、発表するセッションが始まる1時間前に着きたい。

前述のように私のパソコンが不具合を起こしたが、知り合いにパソコンを借りることができた。日本天文学会の場合、前の発表が終わって次の発表に移る時、時間の節約のために、プロジェクターに繋ぐパソコンを切り替える

装置を使う。自分の前の発表の時に、パソコンをこの装置に繋げておこう。

日本天文学会では、9分間の口頭発表の後、3分間の質疑応答がある。制限時間が終わる数分前や終わった時には、進行役がベルで教えてくれる。制限時間を超えてはいけないので、上手く時間内に収めよう。私は初めての学会発表で緊張したのか、早口になって時間を余らせてしまったが、その分質疑応答の時間が長くなり、聴いてくれた人とたっぷり議論することができた。質問への返答に窮した場合、指導教員などの共同研究者がその場にいればフォローしてもらえるが、なるべく自分で答えられるように、賢明な読者諸氏は普段から良く勉強しておこう。

13. 岡山の夜、そしてネットカフェ難民

発表が終わった初日の夜は懇親会はなかったが、指導教員などと岡山の街に繰り出し、瀬戸内の海の幸や地酒を堪能した。前述したように、私は宿泊費の節約のために、ホテルを予約せず、ネットカフェに泊まるつもりだった。指導教員などと別れた後、事前に調べておいたネットカフェへ向かったが、なんとその店はつぶれていた！寝床を求めて夜の岡山を彷徨い歩くことになったが、偶然駅前にネットカフェを見つけて事なきを得た。そのネットカフェにはポスターを入れる筒を持った若者がたくさんいたので、私と同じようなことを考えた院生がたくさんいたのだと思われる。なお、年会期間中はずっとこのネットカフェに泊まった。当時、ネットカフェに泊まったことはなかったのに、学会発表に加えてネットカフェ難民も初体験することとなった。

14. 懇親会や観光などのお楽しみ

自分の発表が終わっていたので、懇親会には心のゆとりを持って参加することができた。金星探査機「あかつき」に載った初音ミクのイラストパネルの件でも尽力された宇宙科学研究所宇宙科学広報・普及主幹の方に、乾杯のビールを注いで頂いたことを覚えている。懇親会では岡山の地酒が充実していたが、酒に強くない私はそれほど飲めなかった。



図 倉敷チボリ公園
スタッフのお姉さんではなく、カフェに襲来した怪鳥の写真で申し訳ない（笑）。

年会の最終日は午後 3 時半で終わったので、岡山からほど近い倉敷チボリ公園（その後、2008 年いっぱい閉園）へ向かった。アンデルセン童話から飛び出してきたようなスタッフのお姉さんがかわいかったことをよく覚えている（図）。

チボリ公園を楽しんだ後は、倉敷駅から寝台特急サンライズ出雲に乗り、埼玉県幸手市で開かれた、アニメ『らき☆すた』の OVA 発売記念イベントへ向かった。初めての学会発表やネットカフェ難民生活、そしてらき☆すたのイベントで炎天下で並んだりして疲れが溜まったのか、はたまたイベント

で声優さんに会えて興奮したのか、イベント後は発熱して点滴を受けることになる。

15. おわりに

以上で私の「はじめてのがっかい」体験は終わりである。長ったらしい上に、これから学会発表をせんとする読者諸氏の役には立ちそうにないものになり、申し訳なく思う。また、写真も学会発表とは関係のない怪鳥の写真だけですまない。これしか見つからなかったのだ。

最後に、私の所属学協会を 50 音順に記すので、これから私の研究者としての立ち位置を想像して欲しい。

コンテンツ文化史学会
天文教育普及研究会
日本教育工学会
日本情報経営学会
日本天文学会



渡辺 謙仁

t_watanabe@ec.hokudai.ac.jp